

令和5年度 学校評価アンケート結果

令和5年度 那賀川中学校経営の概要

校訓 『いのちを大切に』

(1) 教育目標

☆ 『いのちを大切に』の精神のもと、自他を尊重し、自律した生徒を育成する

(2) めざす学校像

- ☆ 生徒が安心して通える学校
- ☆ 地域から信頼される学校
- ☆ 生徒を通わせたいと思える学校

(3) めざす生徒像

☆ 自他を尊重し、自律した生徒

(4) めざす教師像

☆ 教育の専門家として、常に研究・研修に励み、努力する教師

(5) 本年度努力目標及び推進具体策

◎いのちを守る・大切にす

- ① 基本的な生活習慣（早寝早起・食事等）の確立
- ② 人権教育の推進と生徒指導体制の充実 いじめの予防
- ③ 特別支援教育の推進充実
- ④ 道徳教育の推進充実
- ⑤ 特別活動の充実
- ⑥ 食育の推進、徒歩通学・自転車通学の推奨
- ⑦ 災害を迎え撃つ教育

◎いのちを育てる

- ① 驚きと発見のある授業
- ② 教科教育の充実
- ③ 個に応じた指導を重視
- ④ 国際理解教育の推進
- ⑤ 学校図書館を活性化、読書活動の充実

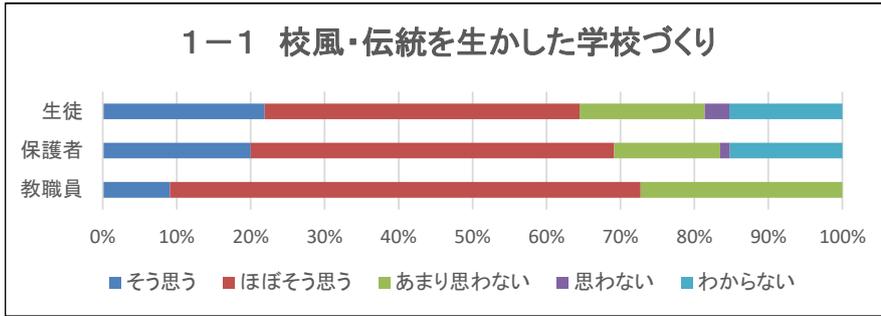
◎いのちを育む・つむぐ

- ① 郷土那賀川町への愛着と誇り
- ② 進路指導の充実
- ③ キャリア教育の推進 ・これからの社会に求められる人材を育成

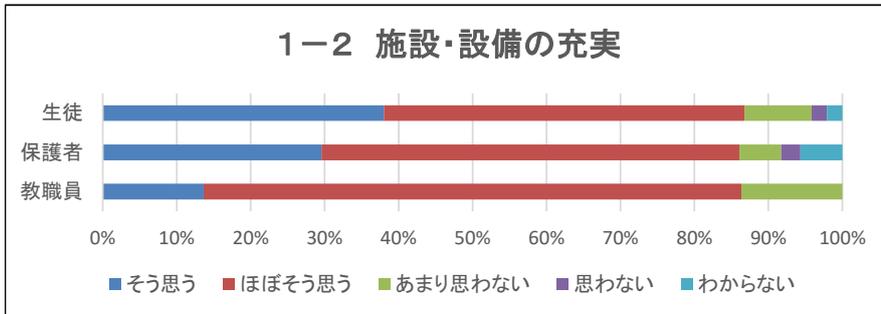
保護者回答率

回答数（人）／総数（戸数） = %
230 232 99%

(1) 【学校生活に関すること】 個性的で魅力的な学校づくり、施設・設備



		校風伝統を生かした学校づくり					
		そう思う		ほぼそう思う		合計	
1-1		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒		33	22	42	43	75
保護者		15	20	56	49	71	69
教職員		0	9	88	64	88	73

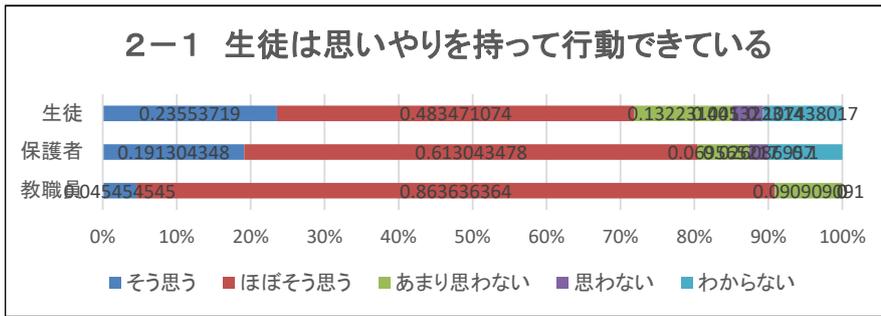


		施設設備の充実					
		そう思う		ほぼそう思う		合計	
1-2		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒		48	38	40	49	88
保護者		30	37	54	57	84	94
教職員		16	14	72	73	88	87

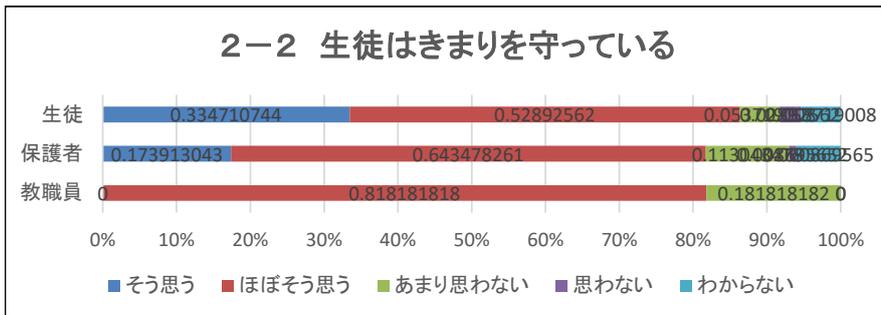
◎ 1-1：【校風・伝統を生かした魅力的な学校づくりができています】
 生徒・保護者・教職員の約7割が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答している。
 本校では、全国にも誇れる、校訓「いのちを大切に」のもと、全教育活動を展開している。校風を生かした教育活動を、さらに展開するためにも、日頃の教育活動、ボランティア活動、オンリーワン活動や学校行事などの目的を生徒に明確に示し、地域の方々や保護者へ情報発信に努め、行事への参加を呼びかけたい。それらを通して生徒には達成感や充実感を味わわせ、保護者には学校教育への理解や協力を求め、本校の校風・伝統を生かした魅力的な学校づくりにつなげていきたい。

◎ 1-2：【学校の施設・設備は十分である】
 「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が、生徒・保護者・教職員とも約9割となっている。情報機器等が導入され、それらも含め「設備の充実」と捉えられていると捉える。今年度も新たな機器の導入を行ってきたが、今後も学力向上に向け、さらなる充実を図るとともに、活用の様子など、保護者への啓発も並行していきたい。

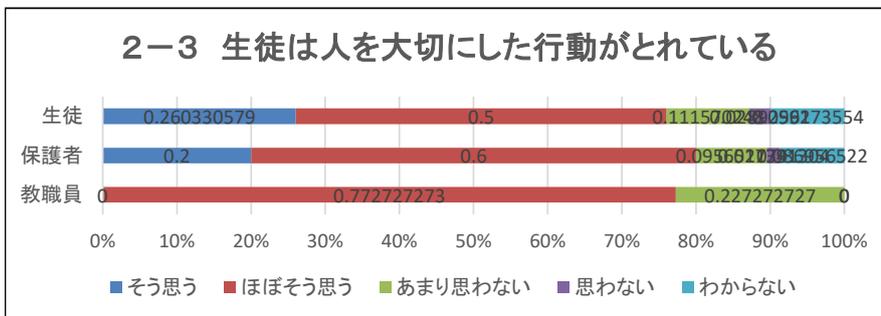
(2) 【生徒の生活に関すること】 他人への思いやり・学校の決まりを守る。



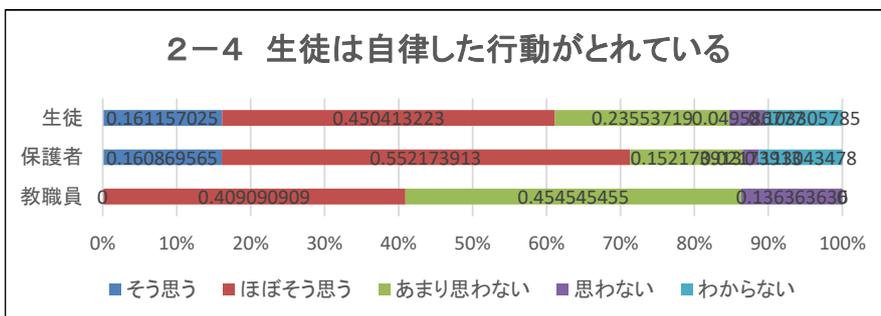
		思いやりを持っての行動					
2-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	19	24	53	48	72	72
	保護者	17	19	59	61	76	80
	教職員	0	5	84	86	84	91



		きまりを守っている					
2-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	40	33	45	53	85	86
	保護者	19	17	64	64	83	81
	教職員	0	0	84	82	84	82



		人を大切にされた行動					
2-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	24	26	51	50	75	76
	保護者	18	20	61	60	79	80
	教職員	0	0	80	77	80	77



		自律した行動					
2-4		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	22	16	50	45	72	61
	保護者	14	16	55	55	69	71
	教職員	0	0	24	41	24	41

◎ 2-1：【生徒は思いやりを持って行動できている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が8割から9割を維持し、前年度より3者とも増加している。思いやりのある生徒の育成は本校の大きな目標である。今後も教育活動全体で、より思いやりのある積極的な行動のできる生徒の育成をめざして、道徳教育、人権教育の推進に努めていかなければならないと感じている。

◎ 2-2：【生徒は学校や学級のきまりを守っている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合で見ると、3者とも8割でほぼ同じとらえ方といえる。また、「そう思う」だけを見ると教職員は少ない。時に、交通ルールやマナーの件で市民の方より苦言をいただくこともあり、継続的な指導の必要性も感じている。また、規範意識だけでなく、社会性を身につけていけるように、家

庭との連携も密にしていきたい。

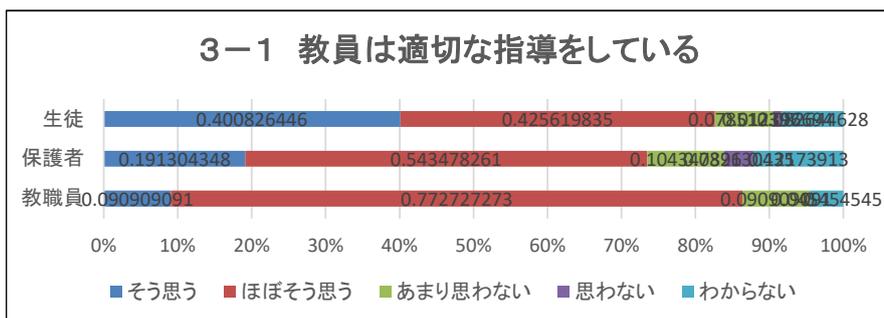
◎ 2-3：【人を大切にされた行動がとれている】

2-1とほぼ同じ傾向を示している。人を大切にされた行動がとれる生徒の育成も本校の大きな目標である。今後も教育活動全体で、より積極的な行動のできる生徒の育成をめざして、道徳教育、人権教育の推進に努めていかなければならないと感じている。

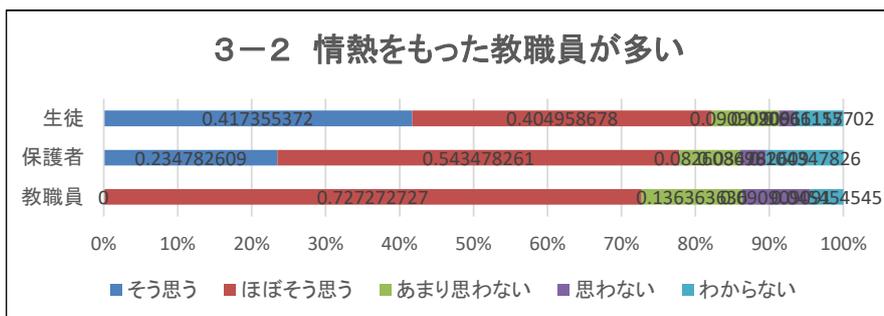
◎ 2-4：【生徒は自立した行動がとれている】

昨年度から新設した項目である。教職員でめざす生徒像について「自律した生徒の育成」を目標に掲げ共有したが、「自律した生徒とは何か」について保護者の間に認識のずれがないよう、教職員と生徒間で具体的に考え、その育成を図るために、家庭と連携していく必要がある。

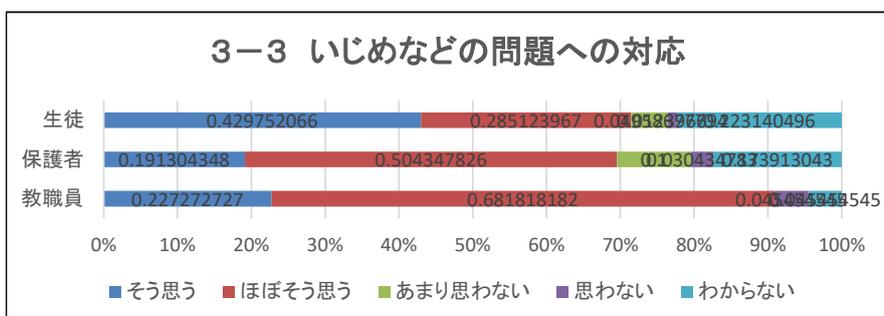
(3) 【教職員に関すること】教職員の指導姿勢・情熱



		教師の適切な指導					
3-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	38	40	38	43	76	83
	保護者	20	19	47	54	67	73
	教職員	8	9	76	77	84	86



		情熱を持った教職員が多い					
3-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	40	42	42	40	82	82
	保護者	22	23	49	54	71	77
	教職員	8	0	76	73	84	73



		先生のいじめなどへの対応					
3-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R4	R5	R4	R5	R4	R5
	生徒	49	43	30	29	79	72
	保護者	21	19	45	50	66	69
	教職員	28	23	64	68	92	91

◎ 3-1：【教員は適切な指導ができている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、約8割であり、昨年度よりも3者とも増加した。常に教職員は生徒、保護者の視点に立ち日々の教育活動を展開している、今後も保護者についても、必要な場合には指導の内容や経緯について丁寧に説明し、連携を図っていく。

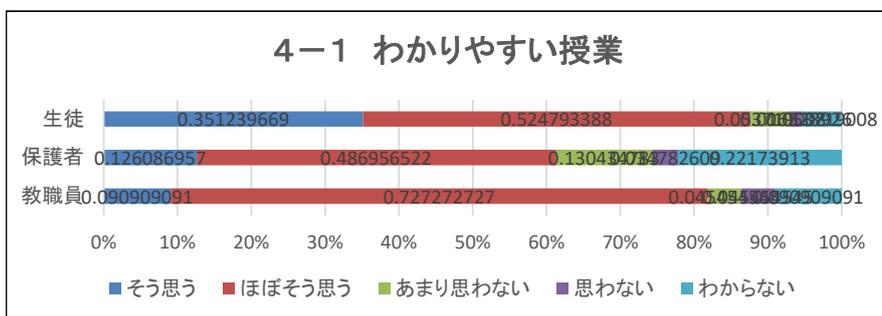
◎ 3 - 2 : 【情熱を持った教職員が多い】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は約7割から8割を超えている。現在、教職員は子どもたちと関わる教育活動をはじめ、学校現場に求められている多大な業務に向き合うという現状がある。教職員の心身の健康は、情熱を持った教育につながるとの認識のもと、現在、「学校現場における働き方改革」を推進しているところである。保護者にも、学校における働き方改革を進めることが、教職員のワークライフバランスを改善し、ひいては教育の質の向上につながるということの理解と協力を求めていきたいと考えている。

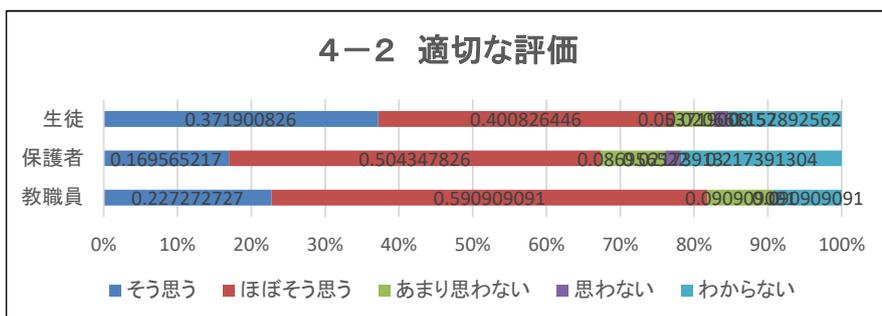
◎ 3 - 3 : 【いじめなどの問題に真剣に取り組んでいる】

生徒、保護者ともに否定的な回答は多くないが、生徒の回答に「わからない」が多いのは、いじめに遭遇したことがないとも考えられるが、いじめに対して鈍感になっている可能性も考えられる。保護者の回答に「わからない」が多いのは、生徒と保護者のコミュニケーション不足により、学校の様子が十分保護者に伝わっていない可能性も考えられる。今後も適切に連携を深めていきたい。

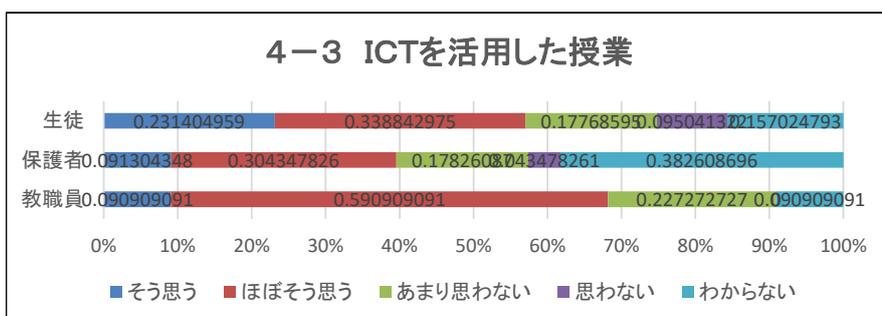
(4) 【授業に関すること】 授業はわかりやすい・適切な評価



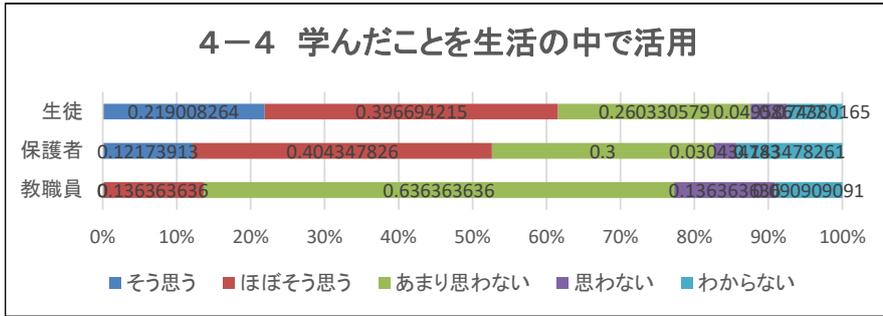
		わかりやすい授業					
4-1	そう思う	ほぼそう思う		合計			
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	30	35	49	52	79	87	
保護者	13	12	50	49	63	62	
教職員	20	9	68	73	88	82	



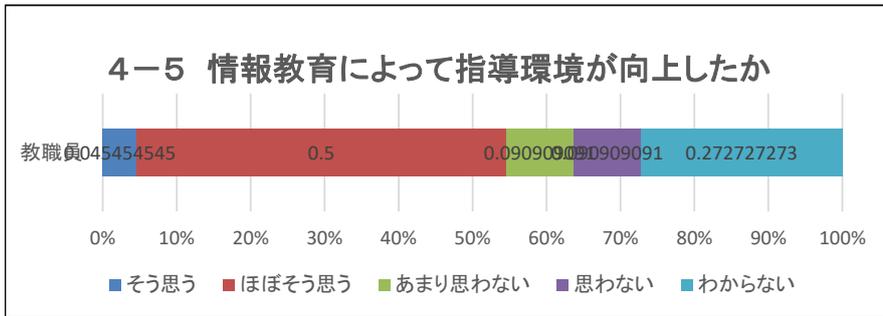
		適切な評価					
4-2	そう思う	ほぼそう思う		合計			
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	37	37	40	40	77	77	
保護者	17	17	55	50	72	67	
教職員	32	23	60	59	92	82	



		ICTでわかりやすい					
4-3	そう思う	ほぼそう思う		合計			
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	20	23	35	34	55	57	
保護者	8	9	33	30	41	39	
教職員	24	9	56	59	80	68	



4-4	学んだことを生活の中で活用					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
生徒	18	22	42	40	60	62
保護者	9	12	46	40	55	52
教職員	0	0	20	14	20	14



4-5	学んだことを生活の中で活用					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
生徒						
保護者						
教職員		5		50		55

◎4-1: 【授業はわかりやすい】

生徒・教職員の「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は8割から9割となっているが、保護者は約6割であり、「わからない」が約2割となっている。積極的に学習の様子を発信していく必要がある。個々の学力差はあるものの、全体的にはきめ細やかで丁寧な学習指導ができるように、積極的なICT機器の導入、「学習の手引き」等で具体的な学習方法を示したり、自主学習を勧めるなどの手法で学力向上に向け、取り組んできたが、今後も、個別最適な学びの実現に向け、生徒のやる気を引き出させる授業の工夫を継続していきたい。

◎4-2: 【学習成果を公平かつ適切に評価している】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、教職員が約8割を超えているのに対し、保護者は約7割である。この隔たりを埋めるためには、まず、3観点の観点別評価をどのような方法で行っているのか、生徒・保護者にわかりやすく説明する必要がある。さらに、主観的な評価に陥らず、客観的なデータに基づいて観点ごとに適正な評価ができているか、評価の在り方を見直していきたい。

◎4-3: 【ICTを活用してわかりやすい授業をしている】

本項目も昨年度の新設である。「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、生徒で約6割程度、保護者は約4割となっている。どのように活用しているのかを、保護者に対しても発信していく必要がある。また、わかりやすい授業を展開する上でICTも活用することは大切であり、教職員が効果的にICTを活用するスキルを身につけていくことが大切であり、わかりやすい授業をするために、教職員が適切な教具と指導方法を選択することが重要である。

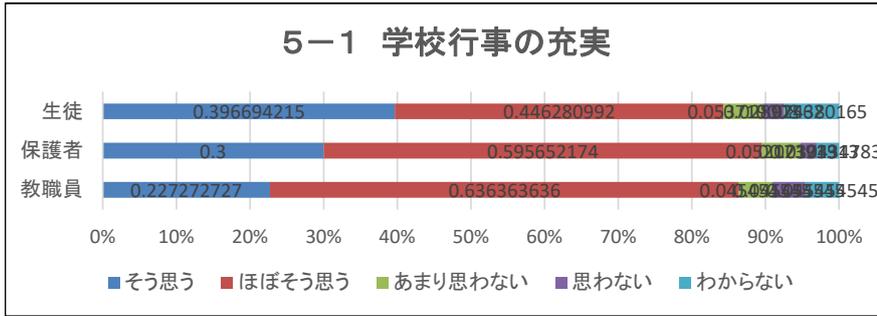
◎4-4: 【学んだ知識を生活の中で活用しているか】

本項目も昨年度の新設である。特に教職員は、肯定的な意見が少なかった。この結果から、新学習指導要領の目指す力をいかに生徒につけさせるかについて、教職員は指導の改善も含め検討をしていく必要がある。

◎4-5: 【教職員は情報教育の推進により指導環境が向上したか】

本項目は今年度の新設である。教職員対象の評価であり、具体的な環境の変化について考えにくい状況もあり、肯定的な意見は約5割にとどまった。今後さらに情報に関する環境と整備していく必要がある。

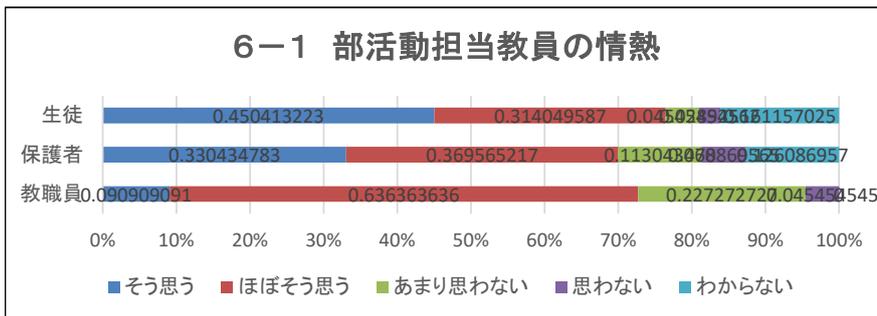
(5) 【学校行事に関すること】生徒にとって楽しい・学級のまとめりや伝統の継承



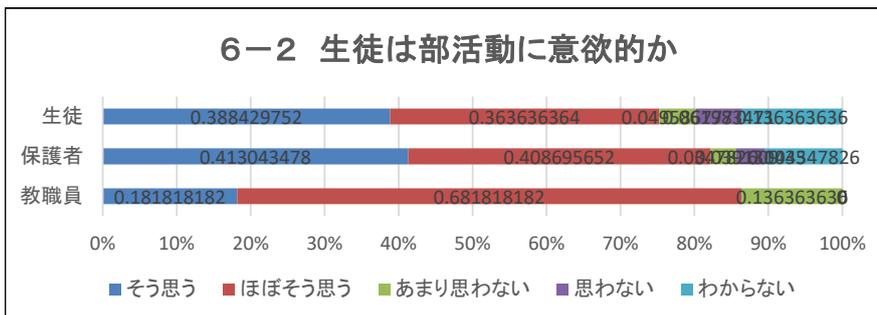
		学校行事は生徒たちにとって楽しい					
5-1	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	43	40	39	45	82	85	
保護者	31	30	50	60	81	90	
教職員	20	23	72	64	92	87	

◎ 5-1：【学校行事は生徒にとって楽しいものとなっている】
 「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、3者とも約9割となっている。特に今年は、コロナ禍の制限を排した上で様々な行事が開催されたことが大きいと考えられる。今後も、生徒たちにとって充実した楽しいと感じられる行事の企画を工夫していかねばならないと感じる。

(6) 【部活動に関すること】教師の情熱を持った指導・生徒の意欲的な取組



		部活動担当教員の情熱					
6-1	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	55	45	22	31	77	76	
保護者	31	33	37	37	68	70	
教職員	36	9	56	64	92	73	

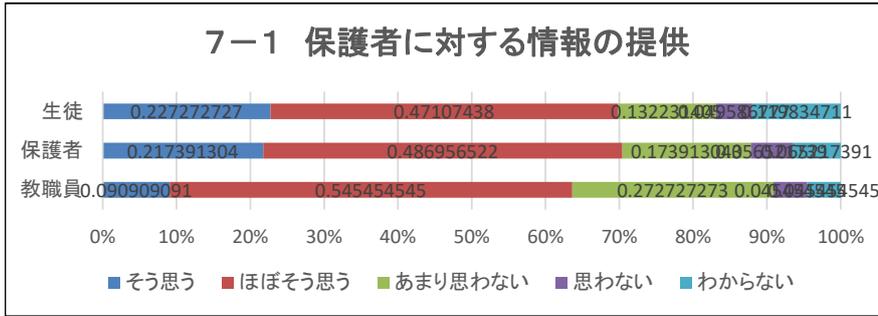


		生徒は部活動に意欲的					
6-2	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	46	39	30	36	76	75	
保護者	37	41	43	41	80	82	
教職員	12	18	84	68	96	86	

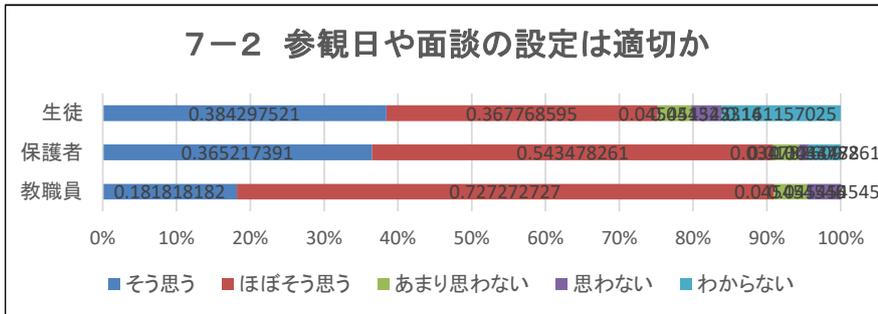
◎ 6-1：【部活動担当教員は情熱をもって指導している】
 「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は生徒、保護者、教職員の約7割を超えている。それぞれの部の方針・練習内容の差はあるが、部活動は、体力や技能の向上をめざすだけでなく、あいさつや礼儀の大切さを学ぶことも目的とする教育活動の一環として認識もしているところである。「学校における働き方改革」と併せ、今後もその在り方について検討をしていきたい。

◎ 6-2：【生徒は部活動に熱心だ】
 「そう思う」「ほぼそう思う」の割合で見ると、教職員の約9割に対して、生徒は若干少ない。これは部活動をしていない生徒が「わからない」あるいは「思わない」と答えているためと考えられる。保護者についても同様のことが言えるため、3者とも高い数値であると言えるのではないと思われる。

(7) 【開かれた学校づくりに関すること】情報公開・参観日・面談・体験学習等



		保護者に対する情報の提供					
7-1	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	27	23	41	47	68	70	
保護者	23	22	47	49	70	71	
教職員	16	9	72	55	88	64	



		参観日や面談は適切					
7-2	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	44	38	31	37	75	75	
保護者	30	37	58	54	88	91	
教職員	24	18	76	73	100	91	

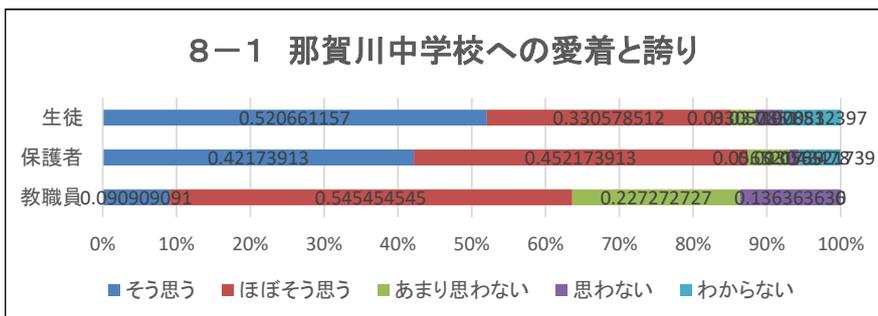
◎ 7-1 : 【那賀川中学校の様々な情報の提供】

3者とも約7割の肯定率である。「保護者への情報提供」という言葉から、何をイメージすればいいのかわかりづらかったとも考えられる。保護者に情報を提供する機会・手段として、三者面談、学校便りや学年便り等の文書、ホームページ、通信簿や成績表、欠席時等の家庭連絡などが挙げられるが、今後も、それぞれの方法で、保護者のニーズに合った情報提供を心がけていきたい。

◎ 7-2 : 【参観日や面談が適切に行われている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、生徒はほぼ横ばい、保護者、教職員は昨年度を上回っている。参観日を2回実施できたことも要因だと考えられる。今後も適切な時期や手法を工夫していきたい。

(8) 【那賀川中学校の教育全体に対する信頼と誇り】

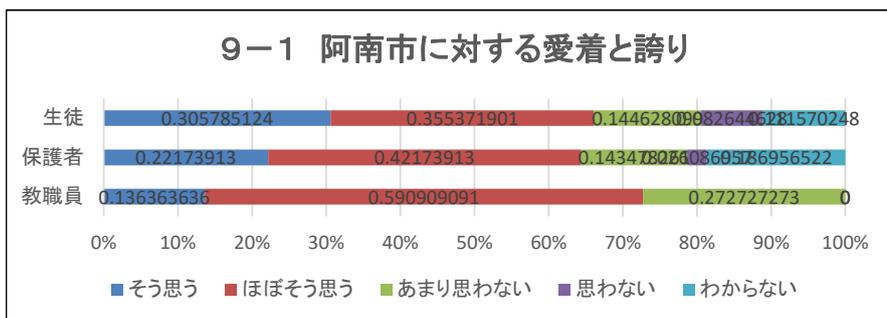


		那賀川中学校に対する満足度と誇り					
8-1	そう思う		ほぼそう思う		合計		
	R4	R5	R4	R5	R4	R5	
生徒	54	52	30	33	84	85	
保護者	36	42	49	45	85	87	
教職員	20	9	56	55	76	64	

◎ 8-1 : 【那賀川中学校の教育全体に対する満足度と誇り】

那賀川中学校に対する満足度と誇りを「那賀川中学校の生徒で良かったか。」という問いかけで評価したものである。「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が、生徒・保護者で約9割近い回答である。教職員は若干下降している。ただ、教職員は分母が小さいので、1人の変化がパーセンテージとしては大きな変化として出ることを見ると、そう大きな変化ではないと考えられる。ただ、全員の満足を得られていない現状を真摯に受け止める必要がある。全教職員で課題を見極め、その解決のための取り組みを積み重ねていく決意である。

(9) 【阿南市に対する愛着】



阿南市に対する愛着						
9-1	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R4	R5	R4	R5	R4	R5
生徒	34	31	36	36	70	67
保護者	32	22	49	42	81	64
教職員	32	14	44	59	76	73

◎ 9-1 : 【阿南市に対する愛着】

昨年度新設した阿南市小中学校で問う共通の項目である。漠然とした設問であり、回答しづらかった面もあったとは考えられる。具体的な分析は難しいが、相対的には保護者は阿南市に対する満足感が高意と考えられる。人口減少や少子化に歯止めがかからない現状もあるが、ふるさと「阿南市」に愛着と誇りを持てる教育を、本校としても今後も継続していきたい。また、行政も、現在の中学生が将来大人になっても住み続けたいと思う魅力的な街づくりを真剣に考え、推進してくれることを願っている。